

# ハンノキ通信



秋の号

発行  
あらかわ市民環境サポーター事務局  
(国土交通省荒川上流河川事務所)  
平成21年10月16日

## ハンノキの苗、その後は？

今年の夏は、ちょっと夏らしくないまま終わってしまいました。各校ハンノキプロジェクトの子どもたちが育てている、ハンノキの様子をお伝えします。

上尾市立太平中学校のハンノキ（写真矢印）。9月に環境サポーターの菅間さんと大友さんが訪問し、2年目の苗は順調に大きくなっていることを確認しました。1年目の苗の多くはうまく育たず、この夏に枯れてしまいました。残されたハンノキを、大切に育ててください。

このほか、環境サポーターからプロジェクトに参加する科学部のみなさんに、秋の荒川の自然について、お話しをしました。



写真提供:あらかわ市民環境サポーター 菅間氏



川島町立丸小学校でも、2年目の苗は元気なのですが、1年目の苗の多くは枯れてしまいました。今回の環境サポーターの学校訪問では、「ハンノキを枯らさないようにするにはどうしたらいいの？」を、改めてみんなで考えました。

水や土、太陽の光はじゅうぶんだったか、これからどうしていけばいいか、環境サポーターの熊谷さんと佐藤さんがたくさんお話ししました。

両校の2年目のハンノキの苗は、葉っぱが落ち始めたところに、三ツ又沼ビオトープに植え戻します。



## 三ツ又沼ビオトープで見られる生きもの

三ツ又沼ビオトープでは、夏から秋にかけて、多くの生きものと出会えます。ここではほんの一部をご紹介します。次の週末にでも、三ツ又沼ビオトープに出かけてみませんか？



埼玉県で見られる「赤とんぼ」の一種、リスアカネ。木の多い水辺を好む日本在来のトンボです。三ツ又沼ビオトープでは近年ハンノキやヤナギなどが大きくなるにつれ、たくさん見られるようになってきました。

これはチョウセンカマキリという、三ツ又沼ビオトープのような草を好むカマキリです。「朝鮮」という名前がついていますが、昔から埼玉県の自然にぐらす、在来のカマキリです。



まるでタコの足を逆さにしたようなこの赤い植物、名前もずばり「タコノアシ」。日当たりのよい水辺に生育する植物で、埼玉県だけでなく全国で絶滅が心配されている植物のひとつです。



## 三ツ又沼ビオトープでかつやくする人たち

荒川の自然をいつまでも残したいという願いのもと、荒川周辺にぐらすみなさんがボランティアで様々な活動を行う仕組みが「あらかわ市民環境サポーター」です。ハンノキプロジェクトに参加する子どもたちにはおもしろいお話、ためになるお話をするほかに、こんな活動もしています。



写真提供:あらかわ市民環境サポーター 小川氏

この地域に元々ぐらしている生きものが、これからも安心してぐらしていくため、増えてきている外国原産の草を抜いたり、ゴミを片付けたりもしています。また、水や生きものに異常がないか、木道がぐわれていないか、ビオトープを見回ります。

行政の方といっしょに、荒川や三ツ又沼ビオトープの自然をどうやってぐわっていくか、どういった生きものがぐらせる場所になるとよいか、話し合いをします。

